

2011Vol.2特集「言語活動で授業を捉えなおす」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*「VIEW21」中学版のバックナンバーは「Benesse教育研究開発センター」ウェブサイト(<http://benesse.jp/berd/>)でご覧いただけます。

◎「言語活動は教育目標達成のための手段である」という、東京女子体育大の田中洋一教授の話は、とてもよく理解できました。自分の授業で言語活動を取り入れる時、活動自体が目的になりがちでしたが、あくまで授業目標を達成するための手段であるという位置付けを再認識しました。 [北海道/S中学校/N・M]

◎東京女子体育大の田中教授の話の中で、「大きな言語活動」と「小さな言語活動」という捉え方がとても参考になりました。言語活動に大小というバリエーションを持たせることで、さまざまな教育活動に取り入れやすくなると思います。 [長崎県/A中学校/Y・F]

◎吉野ヶ里町立三田川中学校の実践では、言語活動の4領域の分類と具体的活動が参考になりました。各教科に生かすことができ、授業で行う生徒の活動が豊かになり、思考力・判断力等の育成につながると感じました。また、授業以外での「今日のことば」やエッセイは、書く力を育てるために効果的であり、教科の目標を達成するための言語活動であることがよく表れていると思いました。 [大分県/D中学校/K・K]

◎府中市立府中第三中学校の取り組みでは、谷合しのぶ校長がどう働きかけているのかが、具体的かつ明確に書かれていて、校長としてどうすべきかがよく分かりました。教員のベクトルをどう合わせていくかという点で、今後参考にしたいと思います。「3校の事例か

ら学ぶ言語活動実践のポイント」もよくまとめられて良かったです。 [高知県/H中学校/T・F]

◎四万十町立窪川中学校のグループ学習では、生徒同士の教え合いによって、個々の生徒の自己有用感が生まれ、授業参加への意欲が高まったのだと読み取りました。個々の生徒の学習理解が深まり、生徒一人ひとりが満足感を得られたからでしょう。このように、授業中に行う生徒指導が、学校をより良くしていく原動力になるのだと感じました。

[群馬県/H中学校/T・A]

◎言語活動の充実、キャリア教育を推進する上でも非常に重要なポイントになると思います。その観点で今回の特集を読んだとき、「3校の事例から学ぶ言語活動実践のポイント」と「資料」のデータはとても参考になりました。データから課題を読み取り、自校の実態と重ね合わせ、次なる策を考える事がこれからの教育を考える上でも重要と捉えています。

[新潟県/K中学校/S・K]

◎特集では、言語活動を充実させるための授業展開の方法などが具体的に示されていて、本校でも実践できると感じました。言語活動を通じて授業目標を達成させていくと共に、人間関係の構築や、それに伴う自尊感情、自己有用感の育成にもつながることに気付きました。 [兵庫県/S中学校/I・H]

お知らせ

文部科学省が被災地の学校と提供者を結ぶマッチングサイトを開設しています

「東日本大震災 子どもの学び支援ポータルサイト」<http://manabishien.mext.go.jp/>

編集後記

「学び合いにマニュアルはない。しかし、学び合いを研究し続けるマニュアルは学校に残したい」。退任を翌年に控えた校長先生がおっしゃっていた言葉です。学び合いのアプローチや取り組みは変わっても、目の前の生徒一人ひとりの課題を丁寧に見取り、最善の指導方法を模索し続ける教師文化は残したい。将来の中学生、また中学校教育を見据えていらっしゃるからの言葉だと感じました。これからも、こうした先生方の想いや熱を伝えていくよう努めてまいります。引き続き、ご指導をよろしくお願ひ致します。(佐藤)

VIEW21 中学版 2011 Vol.3

2011年11月2日発行/通巻第311号

発行人 新井健一
 編集人 原 茂
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 Benesse教育研究開発センター
 (株)ビーヴィオコーポレーション
 (有)ペンダコ
 印刷製本 二宮良太
 編集協力 二宮良太
 執筆協力 二宮良太
 撮影協力 荒川潤、川上一生、筒井岳彦

◎お問い合わせ先

VIEW21編集部

電話 03-5320-1287

〒163-0411東京都新宿区西新宿2-1-1
 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2011